



北海道

北海道環境白書 '20



<表紙写真>

世界自然遺産 知床

本年7月に、知床が世界自然遺産に登録されてから15周年の節目を迎えました。知床は、北半球で流氷が接岸する南限であり、海から陸に繋がる生態系のもとで、多種多様な動植物が混在し、オオワシなどの国際的な希少種の繁殖地にもなっています。また、海の恵みは、遡上する魚によって森に運ばれ、そこに生息するヒグマなどの様々な生き物を育ててきました。

海域と陸域の自然環境が関連し合い、生態系や生物多様性が類いまれな価値をもつ知床を人類共有の財産として将来の世代へ継承できるよう、「北海道知床世界遺産条例」に基づき、自然環境の保全と適正な利用に取り組むこととしています。

(写真(知床連山)提供:公益財団法人知床財団)

<裏表紙>

「新北海道スタイル」

新型コロナウイルスとの闘いが長期化している中、国が示した「新しい生活様式」の北海道内での実践に向けて、新しいライフスタイルやビジネススタイルを変革し、道民の皆様と事業者の方々が連携した「新北海道スタイル」を構築することによって、北海道全体での感染リスク低減などを目指すものです。

テレワークやオンライン授業の導入などによって、人の移動に伴う二酸化炭素排出量が削減される可能性があり、環境に配慮したスタイルへ変革されることが期待されます。

環境白書についてのお問い合わせは、北海道環境生活部環境局環境政策課へご連絡ください。

Tel 011-231-4111 (代表) 内線24-205

011-204-5188 (直通)

Fax 011-232-1301

URL <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ksk>

E-Mail kansei.kankyuu@pref.hokkaido.lg.jp

環境白書の刊行に当たって



北海道は、周囲を海に囲まれ、広大な森林や湿原、清らかな水をたたえる湖沼や河川、そこにいきいきと暮らす野生生物などの豊かな自然に恵まれており、この自然環境から様々な恩恵を受けています。

私たちは、かけがえのない北海道の環境を守り、次の世代へ引き継ぐとともに、将来にわたって持続可能な地域づくりに取り組んで行かなければなりません。

しかし、本道の環境を取り巻く状況は常に変化しており、記録的な猛暑や集中豪雨、暖冬による降雪量の減少などの気候変動、プラスチックごみによる海洋汚染のような地球規模なもの、ヒグマの市街地への出没やエゾシカによる農林業被害といった地域的なものなど、幅広い分野にわたる様々な環境問題に直面しています。

こうした問題に対応するため、道では、気候変動への対策として、既に現れている、あるいは中長期的に避けられない影響を回避・軽減する「適応」の取組を総合的かつ計画的に推進するため、「北海道気候変動適応計画」を令和2年（2020年）3月に策定するとともに、本道の豊富な再生可能エネルギーや森林吸収量などの最大限の活用、環境イノベーションの実現・展開などによって「2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す」ことを表明し、目標達成に向けて、事業者や道民の皆様など一丸となって脱炭素化に取り組むこととしています。

また、プラスチックごみ対策として、令和元年（2019年）10月に道民の皆様に向けて「使い切り」のプラスチック製品の使用抑制などに関するメッセージを発出するとともに小売店で周知を図るといった取組を進めています。

さらに、野生動物とのあつれきに関しては、ヒグマを人間の生活圏に立ち入らせないよう、ごみの適正処理や電気柵の導入などの普及啓発や地域の危機管理体制の充実を図るための人材育成に取り組むとともに、エゾシカの一層の捕獲や食肉利用拡大に向けて、「エゾシカウィーク」や「エゾシカ料理セミナー」などを展開しています。

本道の豊かな環境を守り、持続可能な北海道を実現するためには、道民の皆様一人ひとりが環境保全について自ら考え、行動していくことが重要です。

本道の環境についての状況や道の施策などを取りまとめた本書が、皆様の環境保全に対する理解を深め、行動の一助となることを心から願っています。

令和2年（2020年）11月

北海道知事 鈴木 直道

